

## 王の墓



王の墓（赤坂今井墳墓）

稲作文化が日本（倭国）に定着し、発展をしていく弥生時代中期（約 2,100 年前）から、ムラ人のなかにそのムラやムラがある平野、さらにクニをまとめる代表者「王」が生まれるようになります。

王は代表者としてムラ・地域をまとめていきますが、王が亡くなると、ムラ人の埋葬方法とは違った特別な墓をつ

くるようになります。この王の墓は、たとえば出雲・吉備・大和・河内というクニごとに墓の形態・内容が異なっています。

丹後のクニでは京丹后市峰山町赤坂今井墳墓あかさかいまいがその王の墓と考えられています。この墓は、現在の福田川河口から、峰山町の中心部に至る狭い谷を見下ろす位置にあり、当時、この道を通る人々の目を引く存在であったものと考えられます。弥生時代後期末頃（約 1,800 年前）に造られた墓です。墳丘は、丘陵を削ったり、削った土を利用して盛土を行って、南北 39 m、東西 36 m、高さ 4 m もの大きさをもつ四角形に整形されています。また、周囲には幅 5～7 m の平坦な面をつくっていました。この墳丘の上からは 6 基、周辺の平坦部では未調査の部分もありますが 16 基以上の墓穴が見つかっています。これらは、王とそれを支えた人々の墓と思われます。

墳頂部の墓穴内（第 4 主体部）を調査すると、葬られていた人の頭と判断される位置で、朱とともに多数のガラスや緑色凝灰岩製の

玉類が出土しました。玉類は頭飾りとして用いられたものと考えられます。また、被葬者の右腰あたりから鉄剣や鉄製のやりがんな鉏が出土しています。豊富な副葬品を持つことで注目されましたが、この人物は2番目の地位の人と見られ、もっとも地位の高い人の棺内（第1主体部）は未調査です。



大型の埋葬施設（赤坂今井墳墓第4主体部）

与謝野町おおぶろみなみ大風呂南墳墓も赤坂今井墳墓に匹敵する王墓と考えられます。ここでは2基の方形墳墓を検出し、1号墓の中心埋葬施設（第1主体部）からは鉄剣11振などの鉄製品や銅製の腕飾り（銅釧）13点、ガラスくしろ釧1点などが副葬されていました。当時、鉄製品やガラスは原材料を中国大陸や朝鮮半島からの輸入に頼っており、最先端のハイテク素材といってもよい非常に貴重なものでした。



第4主体部の朱と頭飾り（赤坂今井墳墓）

丹後半島では、北部九州と並んで多量の鉄製品や玉類が見つかっており、朝鮮半島と活発な交易を行っていたものと見られます。当時は「邪馬台国の卑弥呼」が擁立される直前に当たり、倭国内は戦乱期にあったと記されています。そのなかで、丹後半島を治めた王は、交易をもとに多量の鉄製品を蓄積しており、倭国内での政治的な重要性は非常に高かったと考えられます。

赤坂今井墳墓・大風呂南1号墓の被葬者はこうした交易を支配した人物と推測されます。 （石崎善久）